



ハマヒルガオ

カワツルモ

ウラギク

ハマボウ

大阪市内
唯一の自生地
かも？

コガマ

大阪では絶
滅したと思わ
れていました。

夢洲には、現在全国的に激減している塩性湿地が潮風の
影響などでできています。そこには、絶滅に瀕している
海浜植物が突然現れたりします。大阪ではすでに絶滅し
たと考えられていた水草「カワツルモ」が発見されました。
外来植物も多いですが、「なにわ」の原風景である広大
なヨシ原もできています。
※これらの写真の植物はすべて大阪での絶滅が危惧されている
在来の植物です。

夢洲の植物

植物調査 8回
在来植物 82種 逸出(園芸)13種
外来植物 111種(特定外来生物3種)



ハマゴウ



ハマボス



ツルナ



ヒトモツスギ

夢洲の昆虫

昆虫調査 8回
確認昆虫種 104種

私たちの年数回の昆虫調査では、とりわけ希少な昆
虫は確認していません。ですが、トンボやバッタは非
常に多く、外来種や一時飛来種も含め、多様な種類
が夢洲に存在しています。



この夢洲の多くの命を支えていたのは、万博予定地にある塩性湿地とヨシ原の存在です。注目すべき種はほと
んどこの場所にいます。これらがあればこそその「生物多様性のホットスポット」なのです。

大阪湾沿岸の自然は、近世から現代にわたり、失われ続けてきました。その自然はわずかながらこの夢洲で再
生し、このように命あふれる生物多様性のホットスポットになりました。この事実は、SDGsへの取り組みを掲げて
いる2025年万博にとって、象徴ともなりえる大きなチャンスです。私たちは、現在の塩性湿地とそれに続くヨシ原を、
万博の「自然再生エリア」として活用することを提案しています。

あなたがこのフォトアルバムを見ている今も、夢洲では万博およびIR建設のための整備工事が進んでいます。ヨ
シ原は刈り取られ、カワツルモの池は埋められつつあります。しかし今からでも工事のあり方を変更する、あるい
は万博後、跡地に自然再生を行うことによって、豊かな自然を取り戻すことは可能です。私たちは、夢洲に、野生
の生きものが利用できる豊かな自然が作り出されるよう、願っています。

※ 詳細は当協会HPにてご覧ください。

2022年1月10日の夢洲2区(万博予定地)
まだ残る塩性湿地に降りるハマシギの群れ。



【夢洲Photo Album #4 夢洲の生物多様性を未来へ 第2版】

編集 : 公益社団法人 大阪自然環境保全協会

発行 : NPO地域づくり工房

2022年2月1日 3000部

連絡先: 06-6242-8720 office@nature.or.jp

2021年度環境再生保全機構地球環境基金の助成で作成しています。



Yumeshima Photo Album 2019-2022

夢洲(ゆめしま)は大阪湾の宝、
野鳥園臨港緑地(旧・南港野鳥園)とともに、
ラムサール条約登録をめざしましょう！

第2版

夢洲の生物多様性を未来に

繁殖

40年前から埋め立てられ始めた大阪湾の人工島「夢洲」では、次第に埋め
立てられていく土地に草が生え、昆虫が棲み、鳥が集い、多様な生態系が
生まれてきていました。この生物多様性豊かな環境は、大阪に偶然できた
「たからもの」です。

しかし、現在、2025年万博のために急速に開発が進む夢洲。ここで生きる
ものたちはどこにいけばいいのでしょうか？

絶滅が危惧される生きものたちのほとんどは、夢洲で埋め立てが行われて
いる万博予定地の池・湿地・ヨシ原で生息していました。が、半年のイベント
のために、今、未来を奪われつつあります。

コアシサシ

環境省絶滅危惧Ⅱ類(VU)指定。夢洲の砂礫地で集団繁殖。
渡りの前には夢洲の塩性湿地に3000羽を超す大集合が見られた。

ホシハジロ

国際自然保護連合で絶滅危惧Ⅱ類(VU)指定。2019年、2020年夢洲の雨水池に5000
羽近くが滞在。これは全国2位(本州1位)で、ラムサール条約湿地に匹敵するレベル。
だが、2021年暮れ、この3区の池はほとんど埋め立てられました。

本州最大
飛来数

ツクシガモ

環境省絶滅危惧Ⅱ類(VU)指定。
夢洲は100羽を超す飛来数で、本州最大の飛来地となっていた
が、2022年年初にはまだ70~80羽ほどしか来ていない。

本州最大
飛来数

繁殖

セイタカシギ

複数ペアの繁殖を確認。
だが2区ヨシ原は埋め立てられた。

このアルバムは、大阪自然環境保全協会が3年間夢洲に調査に行ったときの
記録で、写真はすべて私たちが夢洲で撮影したものです。みなさんに夢洲の
自然の豊かさを知っていただきたいという思いで作成しました。
調査についての詳しいことはホームページをご覧ください。



ミサゴ



チュウヒ



オオタカ



ノスリ



ハヤブサ

夢洲で確認した注目すべき野鳥たち

夢洲にはさまざまな自然環境が生まれ、そして、その環境に応じた生きものたちが集まり、多様な生態系を創っていました。私たちの3年間の査で、鳥類113種。レッドリスト(絶滅の恐れのある生物のリスト)掲載種だけでも、51種見つかっています。ここには、そのうち写真が撮影できた47種を掲載しました。これらの野鳥を受け入れていた豊かな環境は今、万博とIR計画のために失われようとしています。



ヒバリ



オオヨシキリ



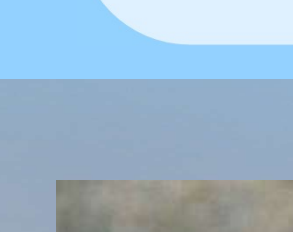
オオジュリン



セッカ



タゲリ



ケリ



ムナグロ



ダイゼン



コチドリ



シロチドリ



メダイチドリ



イカルチドリ



タシギ



オグロシギ



オオソリハシシギ



チュウシャクシギ



ホウロクシギ



ツルシギ



アカアシシギ



コアアシシギ



アアシシギ



タカブシギ



キアシシギ



ソリハシシギ



イソシギ



キョウジョシギ



オバシギ



ミュビシギ



トウネン



ウズラシギ



ハマシギ

夢洲の湿地を残せば たくさんのいのちを 未来につなぐことができます

夢洲は、シギ・チドリ・カモなど渡りをする野鳥にとって、サービスエリアともいえる場所。何千キロの旅の途中で立ち寄り、翼を休め、ゆっくり栄養と休息をとる場所です。猛禽類にとっては、狩りの場所。また、コアシサシやセイタカシギ、小鳥たちにとっては、繁殖と子育ての場所になります。この豊かな環境がなくなれば、どの鳥も数を減らさざるを得なくなります。



コアシサシ

これらの生きものはおもに夢洲2区の池・湿地・ヨシ原にいました。ここは2022年1月現在、万博建設のために埋め立てられつつあります。背景は、2022年1月10日の元ヨシ原風景です。



アマサギ



チュウサギ



ヘラサギ



エリマキシギ



セイタカシギ



ツバメチドリ



ツクシガモ



ヨシガモ



ホシハジロ



ウミアイサ

ほかに絶滅が危惧されている種として、サルハマシギ、キリアイ、オオセグロカモメ、カシラダカも確認されました。掲載されている写真はすべて、大阪自然環境保全協会が、この期間、夢洲で実際に撮影したものです。